

# 女優も農業も楽しむ

2013年1月15日(火)  
NHKラジオ



**工藤 夕貴**(くどう ゆうき、1971年1月17日 - )富士宮市在住は、日本の歌手、女優。  
所属事務所はヒラタオフィス。歌手の井沢八郎の長女として八王子市に生まれる。堀越高等学校卒業。  
1983年、渋谷でスカウトされて、芸能界デビュー。1984年、石井聰互監督の『逆噴射家族』に出演し、注目を浴びる。また、この映画の挿入歌「野生時代」で歌手デビューも果たす。  
ハリウッドの事情について知り、自分もハリウッドで女優業に挑戦することを決意、英語がほとんどできないレベルからそれを学習して準備しつつ、16歳ころからハリウッドに挑戦、無数の“壁”にぶち当たりなかなか成果が出なくてもあきらめず、様々な苦労を重ねつつ挑戦を続け、1989年、ジム・ジャームツシュ監督の『ミステリー・トレイン』に出演。2012年公開の日本・カナダ共同制作映画(クロード・ガニオン監督)『カラカラ』の純子役で出演。「カラカラ」はモントリオール映画祭に入賞。  
2010年10月10日に公務員で武道家の7歳年上の男性(極真空手の指導員で、元警察官)と再婚。

映画「カラカラ」が2012年モントリオール映画祭に入賞。夢のようであった。

現在は静岡県富士宮市に住み女優業のかたわら農業をしCAFÉ NATUREL有機野菜を中心の店を経営している。

12歳の時に芸能界デビュー。知らないうちに時は過ぎていった感じ。子供の頃から自立の気持が強く、寝ないで仕事をしていた。大人子供だった。人に褒めてもらうのが嬉しかった。2010年には再婚している。夫は元刑事の武道家で空手、柔道をおしえている。夫は94キロの体重があったが、自分が実践している食べ合わせ食で78キロに下がってきた。

「映画カラカラ」の舞台は沖縄。風景の美しさ、シンプルな生きる人々の生活・・・がモントリオール映画祭の特別賞を受賞した。「カラカラ」はカナダ人男性と沖縄の主婦を主人公に、沖縄の島を旅することで人生を見つめ直す二人の姿をつづるロードムービー。

監督は沖縄がすきで現在、沖縄に住んでいる。監督の沖縄への愛情が映画ににじみ出ている。フランス詩的なコメディ。そこはかたない笑いをさそう。男女の出会い。純子とピエールの出会い。ある出会いで、あらつる方向が変わる・・・。誰にでもありゆること。ユーモアが溢れ、大人の鑑賞に耐ええる映画です。人生につかれてきた人にはいい映画。

16歳の頃、自分が攻撃して役を採りにいくハリウッド映画に挑戦。日本で仕事をしていて自分が守りに入っていくのが判り海外に挑戦。一人暮らし、その経験が自分を強く、豊にしてくれた。何も心配せず、「やれる！」と思ってやっていたのがよかった・・・と思う。

ロサンゼルスで収入を得る為に、日本語の先生をしていて評価された。芸能人でなくても生きていける！と思いが楽になった。

どうやって英語がしゃべれるようになったかを本にしている。必要があれば、せつぱつまる状態にするとしゃべれるようになる。自分は語学学校にはお金を使っていない。その国に住み、生活するのが一番の近道。すべて独学。とにかくしゃべること！日本にいたころでも、外人芸能人がいると英語でしゃべってもらってしゃべることに慣れた。

英語は「好きだと吸収できる！」  
留学もせず、語学学校にも行かず英語が好きで英語がしゃべれるようになった。

富士宮はロサンゼルスみたいな環境。芸人は借金がこわく、現在の家は借金がない。26歳の時からロサンゼルスに住んだが3ヶ月に一回胃の検査を受けていた。

身体を治す、予防をするのは自分の身体だと気がついた。自分の口に入れるものは自分で作りたいと思い農業を始めた。

かつては運動はもつてのほか・・・の生活で家の中にこもっていた。たぶん、体力がなかったからそういう行動をしていたと思う若い頃は、お腹が一杯になる、食べたいものをたべる・・・。食べたいから食べていた。

食べ物は身体に入れる燃料。ハイオクのエレギーを身体に入れないといけない。食べ物で身体が変わってくる。命があるものを食べないといけない。

ダイエットは痩せることではなく、食習慣をかえることです。

リバウンドを繰り返すと、肉が霜降りになってしまう。

今後、第二の夢・仕事として「食への思い、食べ物で身体が変わる！」を仕事にしていきたい。



工藤夕貴さんの可愛いお店、カフェナチュレ。庭で有機栽培し、自ら作った野菜等を提供している。メニューはカフェやスイーツ、カレー、ピザ、サンドウィッチ等ある。11時～17時(定休日は火、水、木曜日)駐車場5台程度。